

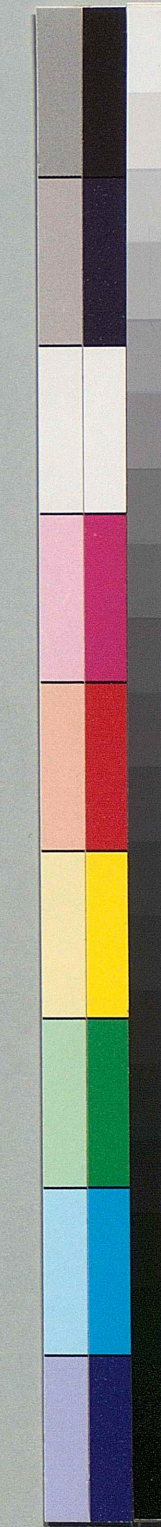
「学生便覧別冊」

昭和40年度開講科目



お茶の水女子大学

東京都文京区大塚町三五番地
お茶の水女子大学
教育学研究室



目 次

昭和40年度開講科目

一般教育科目..... 1
 外国語..... 4
 一般体育..... 8
 専門科目（文教育学部）..... 9
 専門科目（理学部）.....29
 専門科目（家政学部）.....40
 教職教育科目.....51

付

1. 各科補導委員.....55
 2. 昭和40年度行事予定.....57
 3. 授業時間割.....58

昭和40年度開講科目

- 備考 1. 科目名からそのまま内容が推定されるものについては、説明を省いたものもある。
 2. 科目名の順序その他は必ずしも一定の形にそっていない。

一般教育科目

科目名	担当 教官	対象 学年	講義 内 容
◎一般教育科目			
○人文科学系列			
哲学	藤田 石塚	I前 I後	哲学についての一般的な序説の後、西洋哲学思想史を古代・中世（前期）・近世（後期）に涉って概説する。
倫理学	尾田	I前	現代生活における倫理の問題を、科学、経済、政治、教育、芸術、宗教の側面から取り上げる。テキスト：一般倫理学（理想社 ¥450）
心理学	松村		現代心理学の動向。一般心理学の対象と領域、講義形式および集団運営法（バズ方式）を活用して、基本的な態度が育つようにする。

宗 教 学	高 木	I, II	文化現象としての宗教を客観的に解明する。個人の場における役割り、社会の場におけるはたらきについて具体的に考察する。
文 学 I	関 根	I	紫式部と清少納言の文学を、作品を通して考え、又その人間像をさぐる。
文 学 II	鍋 島	II 前	比較文学の立場から、一般的にヨーロッパ及びアメリカ文学を歴史的に概観する。
	中 川	IV 後	仏文学。ルネッサンスから大革命まで、とくに18世紀の思想と文学に重点をおく。
美 術 学 史	町 田	{ I } 前 { II } 後	造形美術を対象として前期美術はその恒常的な本質の面について、後期の美術史はその歴史的展開の相について概説する。美術史は日本美術史を扱う。
音 楽	大 宮	I	(1)宗教音楽の形式 (2)器楽曲の形式、(3)過去の名演奏家、(4)演奏解釈論、(5)音楽学概論
○社会科学系列			
法 学 I 総論 (日本国憲法第1部)	井 上	I 前	日本国憲法の総論的説明 (教員免許状必須科目)
法 学 I 各論 (日本国憲法第2部)	井 上	I 後	判例その他具体的問題について憲法の各論的説明
法 学 II	潮 見	II	私法、特に民法を中心として講義をする。また、なるべくその時々におこる法律問題をもとりあげて解説をくわえ、法律的な物の考えかたについてのべる。
経 済 学	安 藤	II	前期に「経済原論」を講じ、後期には、「現代資本主義論」「日本資本主義論」におよぶ予定。(テキスト)日高晋著『経済原論』(時潮社、650円)
歴 史 学	尾 鍋	I II 前	近代民主主義発展史。テキストは尾鍋：クーデター (中公新書 ¥ 250)
歴 史 学	市 古	I II 後	現代の中国がどのようにして生まれてきたかを考える。
文 化 人 類 学	中 根	II 後	人類学の概論

社 会 学	園 田	II	社会学の基礎概念、理論を説明しながら、それを用いて現代社会の諸問題を解明する。テキスト西村勝彦著『一般教養の社会学』(誠信書房 ¥ 320)
地 理 学	渡 辺	I 前	主要自然地域と文化地域の概観。
家 政 学	矢部他	I 後	家政学の概説と現況。
政 治 学	横田地	I 後	現代ヨーロッパの政治——その政治権力の発展と構造を、日本の直面する問題を考えながら、述べてみたい。
○自然科学系列			
数 学	松 田	I 文家	高等数学入門
物 理 学	小野周	I 文家	物理学の基礎法則を、物理学の歴史的発展にもとづいて解説する。またこれらの法則の持つ意味と、日常に見られる諸現象との関係を明らかにする。
化 学	岡 嶋	I 文家	一般教育としての化学通論。(2クラスに分けて講義を行う。)テキスト・林太郎：化学綜説 (裳華房 ¥ 400)
生 物 学 (植 物 学)	塚 本	I 後 文家	主に新陳代謝について。
生 物 学 (動 物 学)	荒 木	I 後 文家	生物学の基本的な問題を二、三とりあげて、生物学固有の概念を説明。
地 学 (天文気象)	石 井	I 後	地球大気の平均的状態、宇宙空間 (特に太陽と地球の関連) を中心に、自然科学がどのように組立てられるかを講述する。
地 学 (地質鉱物)	式	I 前	重力、地震、火山、岩石、地層堆積など地学的諸事象の概観。
統 計 学	魚 返	I 前	森口繁一著：初等数理統計学 (培風館 ¥ 250)
○総合コース 本年度主題 「科学と人間」		II	(主として二年生向) 単位数 4 単位。 本年度担当教官 下瀬、内海、柳田、藤田、蠟山、矢部、鍋島、野島 講義シラバス作成予定。

外 国 語

科 目 名	担 当 教 官	対 象 年	講 義 内 容
◎英 語 (初 級)	長谷川	文 I A	①英国の宗教, 道徳, 政治, 社会制度, 言語などを勉強したい。G. Orawell (池島兼訳注) The English People (南雲堂 ¥ 140) ②時事英語の研究
同	奥	文 I A	Hamler イギリスの俳優たちのレコードを中心にして hearing ability にも留意する。二学期以降は Present-day English のものを加味する。
同	酒 本	文 I B	Sarah Orne Jewett (酒本雅之注釈) : A White Heron and Other Stories (北星堂 ¥ 120)
同	長谷川	文 I B	①アメリカの政治, 経済, 教育事情などを勉強したい。Ralph Gabriel (国弘正雄) Traditional Values in American Life (南雲堂 ¥ 280) ②時事英語の研究
同	長谷川	理 I A	①アメリカ事情をケネディ・ジョンソン大統領の演説を通して学ぶ。Building the Peace (長谷川潔) (南雲堂 ¥ 180) ②時事英語の研究
同	伊 吹	理 I A	C. Day (田村清注釈) : Life with Father (金星堂 ¥ 150)
同	堀	理 I B	John Galsworthy (中島文雄注釈) : Indian Summer of a Forsyte (研究社 ¥ 170)
同	西 崎	理 I B	New York Times Editorials (北星堂 ¥ 130)
同	伊 吹	家 I	Hilton (植田虎雄注釈) : Good-bye Mr Chips (研究社 ¥ 150)

英 語 (初 級) (上 級) 同	木 原 家 I 堀 文 II A 奥 文 II A	Robert Lynd (中西信太郎註) : Excellent, etc. (山口書店 ¥ 100) C. Dawson (高見頼治注釈) : Understanding Europe (南雲堂 ¥ 200) Hamler イギリスの俳優たちのレコードを中心にして hearing ability にも留意する。
同	伊 吹 文 II B	Dickens (岡本圭次郎注釈) : The Cricket on the Hearth (研究社 ¥ 190)
同	木 原 文 II B	Bret Harte (滝川元男, 嶋忠正註) : Baby Sylvester (山口書店 ¥ 150)
同	酒 本 理 II A	F. Scott Fitzgerald (渥美昭夫注釈) : Three "Basil" Stories (研究社 ¥ 200)
同	西 崎 理 II A	Dylan Thomas : Quite Early One Morning (北星堂 ¥ 130)
同	西 崎 理 II B	Articles from The Guardian (北星堂 ¥ 150)
同	酒 本 理 II B	W. Lippmann 斎藤忠利注 : The Public Philosophy (松柏社 ¥ 150)
同	鍋 島 家 II	英語の基礎知識を養うことを目的とする。Henry James (福原麟太郎注) : An International Episode (研究社 ¥ 150)
同	石 渡 家 II	G.H. Gibson : Toward Wider Horizons (研究社 ¥ 150)
英 会 話	ルイス I	SPOKEN AMERICAN ENGLISH (入門用) (研究社 ¥ 200) W.L. CLARK
同	ルイス II	同
独 語 (初級)	横溝政 文 I A	初級文法 2 時間 1 単位, 演習・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト) 未定。
同	丸 山 文 I A	初歩演習 2 時間 1 単位。文法・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト) 未定。
同	横溝節 文 I A	初級読本 2 時間 2 単位。文法・演習と共に年間を通じて履修。(テキスト) 未定。

独	語(初級)	上野	文I B	初級文法2時間1単位。演習・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		吉田	文I B	初歩演習2時間1単位。文法・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		原田	文I B	初級読本2時間2単位。文法・演習と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		原田	理I A	初級文法2時間1単位。演習・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		小川	理I A	初級演習2書間1単位。文法・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		志田	理I A	初級読本2時間2単位。文法・演習と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。 富山・岩淵：ドイツ語新読本, 中村・志田：ドイツ民謡珠玉集。
同		志田	理I B	初級文法2時間1単位。演習・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。 山川：新ドイツ文典, 中村・志田：ドイツ民謡珠玉集。
同		志田	理I B	初歩演習2時間1単位。文法・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。 上記文法書と民謡集を共通に使用。
同		横溝節	理I B	初級読本2時間2単位。文法・演習と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		志田	家I	初級文法2時間1単位。演習・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。 妹尾・五木田：新進ドイツ文法, 中村・志田：ドイツ民謡珠玉集。
同		志田	家I	初歩演習2時間1単位。文法・読本と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。 上記文法書と民謡集を共通に使用。
同		吉田	家I	初級読本2時間2単位。文法・演習と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
独	語(上級)	横溝政	文II	上級講読2時間2単位, 他の文II(丸山)と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。

独	語(上級)	丸山	文II	上級講読2時間2単位, 他の文II(志田)と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		上野	理II	上級講読2時間2単位, 他の理II(横溝政)と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		横溝政	理II	上級講読2時間2単位, 他の理II(上野)と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		野村	家II	上級講読2時間2単位, 他の家II(小川)と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
同		小川	家II	上級講読2時間2単位, 他の家II(野村)と共に年間を通じて履修。(テキスト)未定。
独	語(高級)	志田	全IIIIV	高級講読, 自由選択2時間2単位。(テキスト)未定。
仏	語(初級)文法	田島	全IA	フランス語初級文法講義及演習を行う。
仏	語(初級)演習	田島	全IA	視聴覚教授法によりフランス語の実際の活用に重点をおき, 或る程度の表現は「話す」ことも「書く」ことも可能なるようにする。
仏	語(初級)文法	小池	全IB	(テキスト)朝倉フランス語<文法>(白水社 ¥290)
仏	語(初級)演習	小池	全IB	(テキスト)朝倉フランス語<読本>(白水社 ¥200)
仏	語(初級)読本	市原	全IA	フランス語初級の読みものを文法の説明を主として講義する。
仏	語(上級)	市原	全IB	同上
仏	語(同)	小池	全II	(テキスト)フランソワ・モーリヤック：知識の悪魔(第三書房 ¥200)
仏	語(同)	岩崎	全II	二十世紀の作家から中級程度のものを選んで講読。
仏	語(高級)	田島	全IIIIV	XV世紀のモラリスト Rivarol Discours sur l'Universalité de la Langue Française (Classique LAROUSSE 代金不明)を講読演習を行うその内容は, フランス語のフランス文化に及した影響を論じたもの。
仏	語(会話)	ホエッカ	II IIIIV	自由会話で初級程度から始め, 漸次中級に進む予定。テキストは未定。

一 般 体 育

科 目 名	担 当 教 官	对 学 年	講 義 内 容
◎一 般 体 育			
体 育 講 義 (体 育)	林	全 I 前	体育の概論と女子スポーツ及びレクリエーション活動について講述。
体 育 講 義 (衛 生)	松 本	I II 前	疾病概論を主として講述。
体 育 実 技	林 山 石 中 山 水 奥 江 古	I II	2年間で60時間を授業(第一コース)でとり、残りの30時間(二単位につき)を体育第二コースで取得するか、第三年次の補講時に参加して補充するかの方法がある。但し、止むを得ない場合と雖も第四年次の前期中に取得完了すること。 体育第二コースは課外ならびに学外の体育活動を行って指導教官の認定を受ける。 体育第二コース課外計画予定表 1. スケート(ローラー・アイス) 4月~1月 2. 遠足 5月 3. 球技大会 5月~6月 4. 海浜水泳指導 7月 5. プールにおける水泳指導 6. 高原生活(志賀高原, 富士山麓) 7月~10月 7. 体育祭 11月 8. スキー 12月~3月 9. その他。

専 門 科 目

文 教 育 学 部

哲 学 科

科 目 名	担 当 教 官	对 学 年	講 義 内 容
倫 理 学 概 論	勝 部	II	アントロポロジーとしての倫理学の再建の試み。
日 本 倫 理 思 想 史 概 説	勝 部	III	日本における倫理思想の展開過程を概説する。
日 本 倫 理 思 想 史 特 講	勝 部	III IV	日本倫理思想史につき資料中心に特講。本年度は明治思想史を主題とする。
哲 学 特 講 I	藤 田	I	ヘーゲル哲学解体以後19世紀後半のドイツ哲学, シュリング後期の哲学からキルケゴール, ショーペンハウアー, ブルクハルト, ニイチェに至る。
論 理 学	石 塚	I	形式論理学。
近 世 哲 学 史	石 塚	II	デカルトからヘーゲル哲学崩壊まで。
哲 学 史 演 習	石 塚	III	Kant : Kritik der praktischen Vernunft
西 洋 倫 理 思 想 史 概 説	尾 田	I	古代から中世, 近代を経て現代にいたる西洋倫理思想の流れを概説する。 テキスト: 安倍能成著, 西洋道徳思想史 (角川書店 ¥ 260)
倫 理 学 特 講	尾 田	II III	現代倫理学における方法の問題を扱う。
倫 理 学 演 習	尾 田	III IV	O. F. Bollnow : Wesen und Wandel der Tugenden

西洋古代中世哲学史	藤井	ⅢⅣ	本年度はソクラテス、プラトン、アリストテレスを中心として、ヘレニズムの哲学に及ぶ。
哲学特講	岩崎	ⅢⅣ	真理とは何か、真理の規準など真理の問題についての哲学的考察。
東洋哲学	玉城	Ⅱ	インド思想、インド仏教を中心とし、併せて中国・日本仏教にも及びたい。西洋思想と比較し得るものは、その点も念頭に置く。
19世紀の哲学	渡辺	ⅢⅣ	現代哲学はヘーゲル死後の1840年前後から開始する。本講義は、その時期に発生した実証主義・マルクス主義・実存主義の三思潮を論ずる。
美学の基本問題	杉野	Ⅲ	美学ないしは芸術学の基本問題を適宜とりあげて論述する。討論を通じて問題が力動的に展開してゆくことを希望する。
哲学通論	藤田	Ⅲ	哲学全体にわたる主要問題として知識、文化、歴史、実践、人間存在等の基礎知識。
哲学特講Ⅰ	藤田	ⅢⅣ	二十世紀初頭から現在に到る主要なる哲学思想を取上げて、その本質と帰趨とを明らかにする。
美学特講	谷田	ⅢⅣ	美的範疇の問題。(統講、作品例に即して)
哲学演習Ⅰ	未定	Ⅱ後	
哲学演習Ⅱ	未定	Ⅲ	

史 学 科

科 目 名	担 当 教 官	対 象 年	講 義 内 容
日本史概説	中村一	Ⅰ	社会史的観点から日本文化の発達過程を概説する。今年度は中世(鎌倉～室町)に重点をおく。テキスト：家永三郎著「日本文化史」岩波新書
日本史特講A	中村一	ⅢⅣ	テーマ：文明開化期の歴史家とその思想。伊達千広・福沢諭吉・田口卯吉の著述の検討を主要内容とする。

日本史学演習A	中村一	ⅢⅣ	「折たく柴の記」の輪講によって、新井白石とその時代を検討し、派生的に当時の政治・経済状態を追究する。
日本史史料講読	中村一	Ⅱ	愚管抄・神皇正統記の講読を通して、古代から中世への転換期を究明する。
日本史特講	藤井	ⅢⅣ	幕末の朝廷幕府は事件毎に会議制を執って処理し、議会政治の知識輸入と共に漸次立憲政体確立の素地を作った経路を説く。
東洋史概説	和田市古	Ⅰ前 Ⅰ後	東洋における諸民族社会の発達。
東洋史特講A	市古	ⅢⅣ	辛亥革命史研究
東洋史演習	市古	ⅢⅣ	中国共産党における指導層の推移
東洋史史料講読	和田市古	Ⅱ前 Ⅱ後	東洋史研究のための主要な史籍の解題およびその講読。
東洋史特講B	和田	ⅢⅣ	東南アジアにおける華僑社会の成立とその発達。
東洋史学演習B	和田	ⅢⅣ	明朝と琉球との交渉を中心として、国際関係(朝貢貿易、勘合貿易など)の性格を考える。
東洋史演習	山根		
東洋史特講C	荒	ⅢⅣ	ヒンドウイズム、イスラームの影響下に特殊な社会関係をつくりあげてきたインドの、19世紀における新しい歴史的変革について考察する。
西洋史概説	尾鍋	Ⅰ	テキストは尾鍋：下巻、改訂版(学生社¥未定)主として現代史をとりあつかう。
西洋史演習A	尾鍋	ⅢⅣ	帝国主義論。テキストはL. L. Snyder: The Imperialism Reader, Documents and Readings on Modern Expansionism
史学概論	中村英	Ⅲ	歴史学の発達・歴史理論・歴史観・歴史学研究法の諸問題について講述する。
史料講読	中村英	Ⅱ	R. L. Schuyler and C. C. Weston, ed., Cardinal Documents in British History. (北沢書店に注文)を講読する。

西洋史学演習 B	中村英	Ⅲ	19~20世紀のイギリスの政治・社会・経済の諸問題を扱う。
西洋史特講 A	中村英	Ⅲ	イギリス議会史および現代史の諸問題。
西洋史特講 C	村瀬	ⅢIV	ナチズムの前提、発達と抵抗運動。
西洋史特講 D	太田	ⅢIV	ミケネ文書、ホメロスの世界、ヘシオドスのエルガの世界、ソロンの改革の直面した社会を分析して、ボリスの形成および奴隷制の機能を追及。

地理学科

科目名	担当 教官	対象 学年	講義 内容
地理学概論	渡辺	IV	地理学本質論と地理学発達史。
外国地誌 I (世界)	渡辺	II	世界の主要文化地域の概観的地誌。自然地理・人文地理の基礎知識を前提とせず中学校の社会科・理科的知識の基盤に立脚して講述する。
日本地誌 I	渡辺	Ⅲ後	日本の地形、気候、資源、現況の歴史的背景の概観と、北海道及び九州の地誌的考察。聴講は地形学、気候学の学習を前提とする。
地誌学	渡辺	専攻科	地理学方法論、特に地域論、地域区分に関する考察、英・米・独・仏に亘る外国諸家の所見と、内外各地の地誌的考察の演習。
気候学 I	松井	I	気候に関する簡単な基礎的事項。
経済地理学	松井	Ⅲ	地域構成要素としての経済現象。
集落地理学	松井	Ⅲ前	集落に関する基礎的事項。
陸水海洋学	松井	Ⅲ前IV	陸水及び海洋の地理。
地理学特講	松井	Ⅲ前	那須野盆地の地誌。
地誌概論	松井	専攻科	地域に関する諸問題。

地質学	浅海	I	鉱物および岩石の生成・性質・分類、地層の生成と変位、地史、地質図に関する概論。
土壌学	浅海	Ⅲ前	土壌の生成・性質・分類および分布に関する土壌地理学的考察。
自然地理学実験	浅海	Ⅲ	地形・土壌に関する室内・野外実習。
地理学演習 II (独書講読)	浅海	Ⅲ	(前期) Hettner: Länderkunde から抜すい。(後期) 最近のドイツ地理学雑誌から若干の報文を選定。
地形学	式	II	各種営力による侵蝕地形・地形輪廻、構造地形、地形発達に関する基礎的理論及び地形分類・地形区分の理論の説明。
日本地誌 I	式	Ⅲ前	本州・四国を中心とした、日本各地の地誌的特色、地域性の解説。
地図学演習	式	II	地形図の作成、地形図上の計測、地形図による地形性質の判読、地形分析などの方法の説明と実習。
写真地理学	式	Ⅲ後	空中写真に関する基礎知識及び空中写真の地理学的判読利用の方法と実例の解説。実習を多少伴う。
地図学	正井	I後	地理学に関する作図および読図の基本的技術・知識の養成。地図投影法を含む。
地理学演習 I (英書講読)	正井	II	地理学術用語の解釈と説明。英語で書かれた学術書の読解力の養成。テキストは Finch & Trewartha: Elements of Geography.
外国地誌 II	正井	ⅢIV	主としてアングロアメリカ・ラテンアメリカの地誌学的考察。
地理調査法	正井	Ⅲ後	地理学的調査に関する基本的技術・知識の養成。野外実習を行なうこともある。
政治地理学	別技	ⅢIV前	はじめに政治地理学の一般的問題を述べ、ついで世界の各地域について具体的な実例を取り扱う予定。
交通地理学	有末	ⅢIV後	交通の概念、機能、発展。交通論の生成。交通地理学の生成とその問題点。交通地理学と地域論。交通調査法。日本の交通問題。
人文地理特講	幸田	Ⅲ前	工業地理学の諸問題——経済地域形成における工業地域の意義、工業立地

気候学 II	福井	III IV	論の系譜, コンビナートと中小企業団地。
中国本土の地理	保柳	III IV後	世界の気候誌について, 最初その全般的なことを述べた後に, われわれと最も関係の深い温帯地方に重点をおいて講述したい。 中国本土の諸地域の自然環境およびこれを基盤として営まれてきた人間生活につき, 各地域の特色に重点をおいて説明する。
文学科 国文学・国語学専攻			
科目名	担当	対象年	講義内容
上古中古文学史	次田	I	奈良時代から平安時代までの文学史の概説。(前期は奈良時代, 後期は平安時代)
国文学講義講読(上古)	次田	II	万葉集巻4・巻5を中心とする講義講読。テキストは日本古典全書本(朝日新聞社)または日本古典文学大系本(岩波書店)。
国文学演習(上古)	次田	III	万葉集の東歌の解釈を中心とする演習。テキストは日本古典全書本または日本古典文学大系本。
国文学特殊講義(上古)	次田	III IV	古代伝承研究。(前年度に引続き, 古事記の出雲系神話について考察する)
国文学演習(近古, 近世)	井本	II	古典をテキストとし読解力の養成を主とした演習。
近古日本文学史	井本	III	近古時代の文芸思潮の展開を跡づける。
国文学特殊講義	井本	専攻科	
国文学講義講読(中古)	関根	II	源氏物語・匂宮巻より。

国文学演習(中古)	関根	III	中古和歌に関して。
国文学特殊講義(中古)	関根	IV	中古後期の物語について。
近世文学史	堤	III IV	日本近世文学の史的展開を概観する。
国文学講義講読	堤	I	近世文学の作品を取上げて, 作品の理解を深めるとともに, 研究法について解説を試みる。
国文学演習(近世)	堤	III	近世小説をテキストとした演習。
国文学特殊講義(近世)	堤	IV	仮名草子から浮世草子へ(昨年度に引続き, 近世初期の小説の変遷を考察する。)
近代文学史	高田	III	大正期文学の諸問題 反自然主義文学の展開と, その到達点としての大正後半期文学について考えたい。
国文学特殊講義(近代)	田中	III IV	近代の文芸思潮。 明治・大正・昭和の文芸思潮について講述する。テキスト不要。参考文献はそのつど指示。
国文学講義講読(近古)	小山	I	テキストを中心にした近古文学の講読。
国語学概説	江湖山	I	
国語史概説	江湖山	III	
国語学演習(その1)	江湖山	III	テキスト一万葉集。
国語学特殊講義(その1)	江湖山	IV	上代特殊仮名づかい。(続講)
国語法概説	市川	III	日本文法の概論。
国語表現法	市川	II	国語表現の原理と方法。

国語学特殊講義 (その2)	市川	IV	文体論の研究。
国語学演習(その2)	市川	II	平家物語。(継続)
文 学 科 中国文学専攻			
科 目 名	担 当 教 官	対 象 年	講 義 内 容
中国文学概説	前野	I II	
中国文学講読(新)	中山	I	中国語の入門。テキスト。“標準中国語” ¥ 250
中国語学講読	頼	I	論語集註。
中国文学講読	中山	II	儒林外史と紅樓夢の味読。
中国語学講読	頼	II	古文真宝。
中国文学演習(旧)	(未定)	III	
中国文学講読	中山	III	話本と琵琶記の講読。
中国語学演習	頼	III	韻鏡について(プリント使用)中古音の講義と平行する。
中国文学演習(旧)	(未定)	IV	
中国文学演習	黎	IV	曹雪芹：紅樓夢80回抜本(新葦書局)
中国語学演習	小野沢	IV	顔之推著盧文弨注補：顔氏家訓(芸文印書館約¥480)
中国文学講読(旧)	頼	I	唐詩選(予定)
中国文学特講(新)	中山	I	中国語の入門。テキスト 老舍“短篇小説選” ¥ 150
中国文学講読(旧)	頼	II	「師友志」講読(プリント使用)

中国文学特講	中山	II	文学革命当時の作品と数篇の読解を中心とし諸問題を究明してみたい。
中国哲学概説	小林	III	中国思想の中心課題とその展開とを歴史的に叙述する。
中国語学概説	頼	III	上古より中古まで講義の予定(詩経および韻鏡を併用する)
中国文学特講	小野沢	III	王充著蔣祖怡選註：論衡選(中華書局約¥140)
中国文学特講	黎	III	施耐庵：水滸(作家出版社)
中国文学特講	(未定)	IV	(未定)

文 学 科 英文学・英語学専攻			
科 目 名	担 当 教 官	対 象 年	講 義 内 容
英文学概説	鍋島	II III	英米文学の作品の形式と内容について、一般的概説を行なう。
英文学演習 VII	鍋島	IV 専	19世紀におけるイギリスの批評方法を研究する。(用書) English Critical Essays (XIX Century. The World's Classics) ¥ 520位
英文学演習 V	鍋島	III	コウルリッジの詩と批評とを詳述し、ロマン主義一般を扱う。(用書) The Selected Poetry and Prose of S. T. Coleridge (Modern Library College Editions T52) ¥ 520位
英語学概説	木原	IV	Brook: A History of the English Language (石橋幸太郎, 中島邦男註) (南雲堂, ¥ 380)
英文法演習	木原	I	小西友七, 大学時事英語文法 (大学社 ¥ 350)
英語学特講	木原	III IV	Shakespeare: "Julius Caesar" (沢村寅二郎訳註, 研究社) "Measure for Measure" をテキストとし, 近世初期英語の文法を概説する。
英文学史(上)	伊吹	II	Sir Ifor Evans: A Short History of English Literature. 斎藤勇: 詩文選 (研究社) 英文学史全般にあたっての講義。

英文学演習Ⅵ	伊吹	Ⅲ	Jane Austen: Emma 前期 Virginia Woolf: To the Lighthouse 後期 19世紀より20世紀にかけての女流小説家概観。
英文学史(下)	橋口	ⅢⅣ	ニュークリティシズムを中心として現代の英米の批評における諸問題をあつかう予定。
英文学演習Ⅲ	橋口	Ⅱ	T. S. Eliot: Essays (研究社, ¥ 650)
英文学演習Ⅷ	酒本	Ⅳ	I. Babbitt (岡橋祐注釈): Humanism (南雲堂 ¥ 200) アメリカ現代文学に影響を与えた主な文学論及び批評を多読する。
英文学演習Ⅳ	酒本	Ⅱ	Herman Melville (北川悌二注釈): Billy Budd: Foretopman (北星堂 ¥ 200)
アメリカ文学史		Ⅲ	本年度は休講
英文学演習	西崎	Ⅰ	講読, A Book of English Poetry (尾島庄太郎編, 北星堂, ¥ 150)
英文学特講	西崎	ⅢⅣ	アメリカ詩の展開 (特に19世紀の詩人を中心として) Comprehensive Anthology of American Poetry (Modern Lib. 北沢書店 ¥ 870) 使用。
英作文演習	長谷川 潔	Ⅰ	Creative Composition 和文英訳と考えずに、出来るだけ英語で考えて英文を書く練習をしたい。教科書は英文科研究室の図書を出す。後期からクラスを二分にして更に充実。テキスト MLA 英語論文の手引 (W. R. パーカー監修, 北星堂 ¥ 100)
英作文演習	長谷川 潔	Ⅱ	現代日本の代表的作家・学者・評論家の文章を選んで演習材料とし和文英訳をやりたい。Collegiate English Composition Book II (開文社) ¥ 140 MLA 英語論文の手引 (W. R. パーカー監修, 北星堂 ¥ 100)
英文学演習	石渡	Ⅰ	E. C. Gaskell (岡田美津注釈) Cranford (研究社 ¥ 450)
英文学特講	島田	Ⅲ	比較文学に関する連続講義。
英語音声学	宮田	Ⅰ前	英語の発音の理論および実際の練習。Vernon Brown: Improving Your Pronunciation (1960年改訂版。明隣堂) ¥ 250を利用する。

言語学	山本	ⅡⅢⅣ	言語及び言語研究の分野方法についての概説, 音響音声学, 調音音声学, 記述言語学, 歴史言語学に関する要項の概説。
米文学特講	ルイス	ⅢⅣ	現代アメリカ短篇集(Ⅰ), (Ⅱ)西川正身解説註釈 研究社の小英文叢書 ¥ 170, ¥ 200
英作文演習	ルイス	Ⅲ	日本人学生のための英文法と英作文の練習 (大学用) 改訂版 MARY H. CHAPPELL
英会話演習	ルイス	Ⅱ	SPOKEN AMERICAN ENGLISH (中級用) 研究社 ¥ 350 W. C. CLARK
英会話演習	ルイス	Ⅰ	SPOKEN AMERICAN ENGLISH (初級用) 研究社 ¥ 300 W. C. CLARK
教育学科 教育学専攻			
科目名	担当 教官	対象 学年	講義 内容
教育心理学特講	波多野	Ⅲ	ピアジェのフロイト批判を中心に遊び, 夢などの発達心理を講ずる。フランス語の初歩をおえていることがのぞましい。
教育心理学演習	波多野	Ⅲ	児童の性格と作文との関係を, ブーゼマン, ブラドックらの研究を講読しつつ研究する。
心理学特講	波多野	Ⅱ	心理学研究の方法, 態度, 論文のかき方などにつき講ずる。心理教育統計の講義をあわせ受講することがのぞましい。
視聴覚教育概論	坂本越	ⅡⅢ	現代教育としての視聴覚教育の理論および方法, 各資料の利用を概説する。
視聴覚教育特講	坂本越	Ⅲ	視聴覚資料の特質, 管理および学習技術上の問題を検討し, デモンストレーションを行う。

児童文化	坂本越	Ⅲ	児童文化の本質, 各種の児童文化財について考察する。(対象, 教育学科および児童学科)
教育科学概論	周郷	I 前	教育の科学的研究にかんする基礎的な諸問題, 教育とは何であったか, 何であるかをふくめて, 今年は科学 (Science) とは何かに重点をおく。
教育科学概論	吉田	I 後	教育の実践に関する研究がどのようにすすめられてきたか, その方法の発展を歴史的に位置づけて概観する。
教育哲学	周郷	Ⅱ	教育の現象と価値をどうとらえるか。(?)教育についての Sophia 知とよるこびの源泉をさぐる。Teilard de Chardin “Phenome Humaïn” を中心に。
教育哲学演習	周郷	Ⅲ	J. Bronowski “Science and Human Values” 講読と討議。
児童文化	周郷	Ⅱ Ⅲ	児童文化の「現象」とその歴史及び現代的な問題点の究明。文化と生活と思想とのかわり合いを主に。教育哲学特講にふり替えられる。
教育心理学概論	小口	I Ⅱ Ⅲ	教育心理学の基礎についての概論。
発達心理学	小口	Ⅱ Ⅲ Ⅳ	1. 精神発達の原理 2. 乳幼児期の心理 3. 児童期の心理 4. 青年期の心理 5. 成人期の心理 6. 老年期の心理
学習心理学	小口	Ⅲ Ⅳ	1. 学習理論の基礎 2. 学習理論の展開 3. 学習理論の応用
学習心理学演習	小口	Ⅲ Ⅳ	原書講読・文献研究・現場研究などの総合的演習。
社会心理学 (マス・コミュニケーション)	坂元	Ⅱ Ⅲ	現代におけるマス・コミュニケーションの意義や役割等を明らかにし, 視聴覚的な文化財の性格に論及する。
教育方法概論	吉田	Ⅱ Ⅲ	教育方法基盤としての学校の機能から展開して, 具体的な実践の諸要因を追究する。
社会教育	吉田 河野	Ⅲ Ⅳ	社会教育の制度, 施設, 運営を概観し, その意義および問題点を明らかにする。倉内他「社会教育講義」著小川利(明治図書)を指定参考書とする。
教育実験実習	吉田	Ⅲ	中学校における国語科教育の授業分析を行う予定。

教育課程論	宮田	Ⅱ	カリキュラムの歴史 (欧米)。カリキュラム論争。
教育課程演習	宮田	Ⅲ	特別教育活動。その成立と問題。
生活指導	宮田	Ⅱ Ⅲ	ガイダンスと生活指導。生活綴方教育と生活指導。訓育と生活指導。道徳教育と生活指導。
教育社会学概論	河野	Ⅱ Ⅲ	教育社会学の意義, その領域と方法, 歴史的展開を概観し, こんにちにおける主要な諸問題を明らかにする。
教育社会学特殊講義	河野	Ⅲ	学校社会学の研究, とくに組織としての学校を問題にする。
教育社会学演習	河野	Ⅲ Ⅳ	Brookouer, A Sociology of Education の講読, 教育の機能, 社会政策と学校, 社会階層と教育が中心になる。
教育史概説	宮坂	I	日本および西洋の教育 (思想・制度・内容・方法) の発展過程を近代に重点を置いて概説し, 社会と教育のかかわりについて説明する。
日本教育史特講	宮坂	Ⅲ Ⅳ 前	明治以降の女子教育・婦人教育の問題点を歴史的に究明し, 現代におよぶ。家族制度・婦人問題とのかかわりにとくに注意したい。
日本教育史演習	宮坂	Ⅲ Ⅳ	歴史と教育を主題に, 歴史的な思考方法 (その本質と教育方法) について探求したい。教育史学の方法に関する反省をもふくむ。
西洋教育史演習	宮坂	Ⅲ Ⅳ	集団主義教育思想の源流と「労働と教育」に関する思想の発展過程について考える。日本における受容・変容の過程についても考えてみたい。
家庭教育論	古川	Ⅱ 前	
西洋教育史特講	柴田	Ⅱ Ⅲ Ⅳ 前	ロシア教育思想史 (19世紀後半)
教育測定学概論	芝	Ⅲ	教育およびその研究における測定の役割りを考え, 測定の方法について学ぶ
教育測定学演習	芝	Ⅲ	教育測定に必要な統計的方法や, テスト理論の応用を学ぶ。
マスコミと教育	斎藤	Ⅱ Ⅲ	マスコミのうち特に放送, 映画を中心としながら, その教育利用に関する諸問題を考察する。

教育行政及教育制度 森 II 教育行政のアルファであり、オメガであるのは「学校」という立場から学校管理論におよぶ。後半は比較教育制度

教育学科 体育学専攻

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
体育学原論	林	IV前 III後	体育学以前の問題と体育に必要な諸科学及び体育学との関連。(体育の原理を含めて講述する。)
体育学演習	林	IV前 III後	Oberteuffer D. : Physical Education の講読。“Exploring Physical Education” の講読。
西洋体育史	林	II前	欧米における体育思想の発達とその史実。
日本体育史	林	II後	日本の学校体育発達史と現代社会における体育の概況。
体育史演習	林	III前	体育史研究法と女子体育思想の発達についての研究。
体育運動学	林	I	運動文化と体育運動の方法。
体育運動各論	林	I-IV	テニス型、野球型の球技とシーズンスポーツ(水泳、スキー、スケート)の基礎的技術およびその指導法。
体育心理学	石山	III	体育心理学の成立・課題・対象。
同 実 験	石山	III	基礎的実験を行ない、実験の操作、実験過程の観察および結果の処理について練習する。
同 演 習	石山	III	Emma McCloy Dayman : Mental Health through Physical Education
体育評価及び測定	石山	III前	体育における測定・評価の意義・目的・対象および操作。
体育運動学	石山	I	女子スポーツの基本問題。
体育運動各論	石山	I-IV	バスケットボール型球技の沿革、基礎技術およびゲームの一般的運び方。

体育運動各論	西	I II	マット、とび箱、徒手体操、なわとび、(鉄棒)運動等の実技上と同じ。
体育運動各論	西	III IV	体育に関する女子の使命と意義及び現代の諸問題について。
女子体育論	山中	III	舞踊史・舞踊美・舞踊の本質について。
舞 踊 論	山中	I 後	舞踊表現のための基礎的実技指導。
体育運動各論(第三類)	山中	I II	舞踊創作の段階的実技指導。
体育運動各論(第三類)	山中	III IV	舞踊創作の段階的実技指導。
体育社会学	菅原	III	現代社会におけるスポーツの諸問題の社会学的考察を中心にしながら、体育社会学の研究領域・方法について講義を行なう。
体育運動各論(冬期スポーツ)			
衛生学	松本	II前後	個人衛生ならびに環境衛生。
衛生学実習	松本	III前後	隔週毎に環境衛生測定実習。
健康教育概論	松本	II	学校保健を中心に講述する。
公衆衛生学I類	野辺地	II前	衛生統計・人口動態・人口動態、伝染病学を主として講述する。
公衆衛生学II類	松本	II後	衛生行政、社会保障、産業医学を主として講述する。
公衆衛生学演習	松本	III前後	公衆衛生学における調査、実験計画法および推計学の演習。
医学概論	松本	III IV前	医学一般を講義し、実生活と体育における応用を講述する。
発 育 論	鈴木	III IV後	胎生学および生後の形態機能の発達過程について。
生理学 I	渡辺	II前	生理学概論及び循環呼吸系を除いた植物系生殖を主として講述。
生理学 II	渡辺	II後	脳、神経系及び感覚生理学を講述。
生理学実習	渡辺	III	隔週毎に生理実験の基礎を実習。

体育生理学	渡辺	II後	循環呼吸器系について運動生理学的見地からのべる。
解剖学	渡辺	II前	人体の系統解剖学中、特に、骨盤と筋肉及び組織学について講述。
体育特殊講義 I	渡辺	I II前	生体とリズム論
体育特殊講義 II	渡辺	III	

教育学科 ~~音楽教育~~ 音楽教育学専攻

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
指揮法	藺田	IV	合唱指揮法、管弦楽との関係、管弦楽指揮法、総譜演奏法。
連合合唱	藺田	II III IV	女声合唱におけるアンサンブルの技巧及び伴奏楽器との関係。
合唱	藺田	II III IV	合唱指導法及び編成法、合唱と語法との関係。
基礎唱法	藺田	I	基礎的発声法研究、ソルフェージュ。
发声楽	藺田	II III IV	発声法及び各国語による発語法、古典、浪漫、近代、現代歌曲及びアリア唱法。
声楽(独唱)	小泉	III IV	リード及びアリア唱法。
ビァノ	遠見	I	基礎奏法の研究。
ビァノ	遠見	I	基礎奏法及び伴奏法の研究。
ビァノ	遠見	II	古典派音楽の研究。
ビァノ	遠見	III	浪漫派音楽の研究。

ビァノ	宮島	IV	近代及び現代音楽の研究。
音楽学特殊問題演習	遠見	III後	和声的分析に関する新しい方法についての研究。参考書：Salzer. Structural Hearing. (プリント作製)
音楽学演習	大宮	III	音楽学専門原書の講読演習。使用テキスト未定。(プリント作製)
西洋音楽史	大宮	II	西洋音楽史概説を演習的に要約。使用テキスト：Grout; History [of Western Music (Norton) (一括発注済み)
音楽美学	大宮	III	音楽美学史概説(その三)ルネサンスより現代にいたる時報。使用テキスト：Moser, Musikäs thetik (Goes chen) (一括発注済み)
音楽美学特講	大宮	IV後	音楽理論的立場にもとづく楽曲分析法を、音楽美学的研究の基礎として適用する方法について論述。新刊外国論文を紹介。(プリント)
管弦楽法	大宮	III前	管弦楽の楽器の特性とスコア・リーディング実習(テキスト、プリント)
音楽形式学	大宮	III後	音楽形式の原理と分析実習。使用テキスト：シュテール、音楽形式学(属啓或訳)(音楽之友社)(一括注文)
音楽概論	美田	I	聴音鍵盤実習及び演習を通じて、音楽の基礎理論を学習し、和声及び対位法への予備能力を養成する。
和声学 I	美田	II	バッハのスタイルによる四声体の和声法(主三和音を主として)を聴音鍵盤実習及び課題実習によって学習す。
和声学 II	美田	III	変化和音をふくむバッハ及びロマン派のスタイルによる和声法を、Iと同様の方法によって学習す。
音楽教育学演習	美田	IV	音楽教育に関する原書の研究。
音楽教育概論	美田	I	音楽教育の四つの分野(唱歌、器楽創作、鑑賞)における根本理念の研究。
音楽教育特殊講義	美田	III IV	近代における音楽教育上の諸問題点の研究。

対位法	萩原	IV	Marcel Dupré : Cours de Contrepoint & Fugue (対位法とフューグ池内友次郎訳) 教育出版社
作曲学	萩原	IV	Richard Stoehr : Musikalische Formenlehre (音楽形式学 属啓成訳) 音楽之友社
日本音楽史	吉川	II III前	古代より現代までの日本音楽の変遷を概観し、あわせて日本音楽の特性と理論に言及する。
音楽史特講 グレゴリオ聖歌	吉川 ポーロ アニユ イ	II III後 III後	理論と実際。 Kgriale(seu Ordinarium Missae) Desclee. Socii, poris, (France) ¥200

文・教育学部共通講座 (法学・社会学・独文学・仏文学)

科目名	担当	対象年	講義内容
法学	井上	III IV	古代から現代までの法思想史
社会学特講	園田	III IV	社会科学方法論, 理論と調査, 調査方法論等について概説しながら, 地域の実態調査を並行して行なう。テキストは福武直『社会調査』(岩波全書)
社会学演習	園田	III IV	社会学における「社会変動論」を史的唯物論と比較対照しつつ検討する。
経済学特講	安藤	II	日本経済の歴史的特質ならびに現状について分析する。
ラテン語	加藤		
ギリシャ語	加藤		
ロシア語初級	米川		アルファベットから始めて初等文法を完了して, ロシア語の基礎を習得する。木村彰一: ロシア文法の基礎 (白水社 ¥ 420)

理学部

基礎教育科目

科目名	担当	対象年	講義内容
基礎数学 I	小川	I	
基礎数学 II	西	II	微分方程式, 解析幾何学と線型代数学。
基礎物理学 I	阿阪	I	質点および剛体のつり合いと, 運動, 弾性, 気体, 振動および波動, 音, 光, 熱などに関する現象とその理論をなるべくやさしく解説する。
基礎物理学 II	坂上	I, II	金原寿郎編: 基礎物理学下巻についての講義 (裳華房 ¥ 750)
基礎化学 I	内海	I	化学の系統を元素の性格に従って学ぶ。前期総論, 後期各論。内海著: 元素序説図表編 (共立出版 ¥ 450)
基礎化学 II	立花	II 前	化学熱力学の入門。ムーア: 新物理化学 上 (化学同人)
基礎化学 II	林	II 後	有機化学通論
基礎植物学 I	塚本	I 後	主に新陳代謝について
基礎動物学 I	荒木	I 後	生物学の基本的な問題を 2, 3 とりあげて, 生物学固有の概念を説明。
基礎植物学 II	大槻	II 前	植物の生理作用に関する基礎的知識について。
基礎動物学 II	柳田	II 後 理 家(食)	生理的動物学への導入。生命形態・体制準位・機能分化・時間因子からの四次元的構成を骨子として生物学的対象群へのオリエンテーションを図る。

理学部 共通科目

科目名	担当 教官	対象 学年	講義 内容
基礎物理学実験	坂田 上 岡 中嶋	I	物理学のもっとも基礎的な実験法を習得することを目標とする。
基礎化学実験	坂田 上 岡 中嶋	I	化学の基礎となる実験。テキスト・仁田勇編：一般化学実験（共立社 ¥ 580）
基礎生物学実験	太田 田 藤 野	I	生物学の基礎となる実験法，実験技術を習得させる。
天文学	藤田 野	III	天文学一般，特に太陽系及び銀河系について。
地球物理学	高野 野	III前	主に地震の話，歴史から現在に至る地震学の諸問題。
超高層物理学	石井 野	III前	成層圏上部から磁気圏に到る空間並に太陽地球間の物理。
気象学	正野 野	III後	気象学に関する基礎的概念と気象現象の解説並に日本及び世界の気候，その他特論。正野重方著：概論気象学（地人書館 ¥ 520）

理学部 専門科目

数学科

科目名	担当 教官	対象 学年	講義 内容
統計学 集合論 演習	魚返 稲 葉	I前 I	Text; 森口繁一：初等数理統計学（培風館） 集合，論理実数の性質。
微積分学 I 演習	沢島 島	I	一変数の微積分の初歩とその演習。教科書は弥永，亀谷，田村共著微積分学（裳華房）
代数学 I 演習	林田 田	I	複素数，多項式（方程式）部分分数，行列式。
幾何学 I 演習	小川 川	I後	
微積分学 II 演習	伊関 山 小	II	多変数の微積分の基本事項とその演習。教科書は末綱恕一，荒又秀夫共著改訂微積分学（富山房）の上下巻
代数学 II 演習	林田 田 立花 久保 小川 谷田	II	抽象代数学の基礎的事項のうち，群，環，体，加群などについての説明。
解析幾何学 演習	立花 花 久保 保 小川 川 谷田 田	II	線型代数と解析幾何およびその演習
位相空間論 演習	立花 花 久保 保 小川 川 谷田 田	III前	位相空間の基本的概念の説明と，これに関する演習。

函数論演習	亀谷	III	複素変数解析函数論の入門及びその演習。
数理統計学	魚返	IIIIV	一般数理統計学の基礎事項について述べる。1. 確率, 2. 標本分布論, 3. 統計的推定, 4. 統計的検定。
実函数論	伊関	IIIIV前	抽象空間のLebesgue積分論初歩
微分方程式論II	斉藤	IIIIV前	複素変域における線型常微分方程式の理論を主として2階の方程式を中心として説明する。
整数論	林田	IIIIV前	2次体および2元2次形式の整数論
微分方程式論I 微分方程式論I演習	松田	III後	微分方程式の初歩的解法とその演習。
代数学III (大学院研究科) [数学専攻]	西	IIIIV後	ガロワ理論。
古典解析学特論III	斉藤	I II前	
近代解析学特論IV	岩村	I II前	
幾何学特論I	立花	I II前	
//	石原	I II後	
幾何学特論II	高橋	I後	
応用数学特論III		I後	
数学講究	亀谷	I II	
//	伊関	I II	
//	立花	I II	

物理学科			
科目名	担当教官	対象学年	講義内容
物理学演習I	下瀬	I	物理学の学習に必要な微積分の演習。
実験工作法	田中	I後	物理実験に必要な種々の工作や基礎的な実習器具について説明し、かつ実習する。
力学I	石黒	II	質点・質点系および剛体の力学。解析力学。物理学演習IIIと平行して履修することが望ましい。微積分の初歩の能力を要する。
物理学実験I	坂上	II	基礎量の測定法, 基礎的機械の使用法を習熟体得させると共に, 実験結果の取扱法及び基礎的な実験操作法の練習。
物理学演習III	石黒	II	力学第一に並行して, 力学の諸問題を解く能力を育成する。微積分の初歩の能力を要する。
物理数学	石黒 下瀬	III前後	常微分方程式及びその境界値問題, 特殊函数論(前年度洪講師のつづき)関数論の概要, Fourier級数論, Laplace変換等
物理学演習II	石黒 下瀬	III前後	物理数学の講義に関連した演習。
電磁気学I 及び光学I	下瀬	II後 III前	静電気, 静磁気, 及び定常電流, 電気と磁気との関係, 交流理論及び電磁波の諸性質。
物理実験学	坂上	II後 III前	実験結果整理法, 基礎量の測定法, 基礎的装置使用法, 実験操作工作法の基礎。
物理学輪講	下瀬 瀬爪	III	物理数学及び電磁気学の中から特殊問題を選んで検討する。英国又は英国の研究者による著書をテキストに使用して, 英文専門書を読解する能力を育成する。(テキストは目下選択中)

物理学実験Ⅱ	坂上	Ⅲ	物理実験第一を終了した学生に対し、更に進んだ実験技術を修得せしめる。
原子物理学	田中	Ⅲ前	黒体輻射・前期量子論・原子・スペクトル・原子構造。
※力学第二	阿阪	Ⅲ前	連続体の力学の一般論、弾性体の力学、流体力学の概説。◎〔力学第1〕
電子工学	田中	Ⅲ後	電子管（主として真空管）および回路の基礎。
熱力学	橋爪	Ⅲ後	熱力学の諸原理。
数理物理学	石黒	Ⅲ前	偏微分方程式の初期値、境界値問題、群論の物理学への応用。ラプラス変換◎〔物理数学〕
※流体力学	阿阪	Ⅲ後	粘性流体の力学。高速気流。電磁流体力学。
量子力学	橋爪	Ⅳ前後	量子力学の基本仮定、調和振動子、水素原子振動論、衝突論、各種実験の解釈を通しての理論の物理的解釈まで含める。
量子力学演習	橋爪	Ⅳ前後	量子力学の講義と並行して問題の解法および物理的解釈を練習する。
熱学及び熱力学	橋爪	Ⅲ前	熱力学の主法則および簡単な応用、不可逆過程の熱力学を含む。
気体論統計力学	橋爪	ⅢⅣ前	気体運動論、平衡状態の統計力学の原理とその簡単な応用。◎〔熱学及び熱力学〕
原子核物理学	藤田	Ⅳ前	核物理学の入門。内容は Fermi：原子核物理学の程度で適宜新らしい話題にふれる。
原子核特論	藤田	Ⅳ後	原子核の理論の主要な問題について重点的に講義する。
気象学	正野	Ⅲ後	気象学に関する基礎的概念と気象現象の解説並に日本及び世界の気候、その他特論。正野重方著概論気象学（地人書房 ¥ 520）
天文学	藤田	Ⅲ前	天文学一般、特に太陽系及び銀河系について。
地球物理学	高野	Ⅲ前	主に地震の話、歴史から現在に至る地震学の諸問題。

超高層物理学	石井	Ⅲ後	成層圏上部から磁気圏に至る空間並に太陽地球間の物理。気体論、統計力学を聴いてあることが望ましい。各教官の研究室に別れて行なう。
物性論	石井	Ⅳ後	
特別研究	全教官		
(大学院理学研究科)			
〔物理学専攻〕			
流体力学特論Ⅰ	阿阪		
計測学特論Ⅰ	坂上		
電磁気学特論	田中	ⅠⅡ後	
分子物理学Ⅰ	石黒	Ⅰ前	
半導体論		ⅠⅡ後	
素粒子論	下瀬	Ⅱ前	
核物理学Ⅰ	藤田	Ⅱ前	
固体物理学Ⅰ	橋爪	ⅠⅡ前	
特別研究	下瀬	Ⅱ	
	石黒	ⅠⅡ	

化 学 科			
科 目 名	担 当 教 官	对 象 年	講 義 内 容
基本化学実験	岡嶋	Ⅱ前	化学の基礎となる実験。テキスト・仁田勇編：一般化学実験（共立社 ¥ 580）
物理化学Ⅰ	立花	Ⅱ	化学熱力学および波動力学の入門講義をして化学理論の理解への準備とする。ムーア：新物理化学上下（化学同人） ◎〔基礎化学Ⅰ，基礎物理学Ⅰ，Ⅱ〕
分析化学Ⅰ	中西	Ⅱ前	容量分析法を中心に，分析化学一般の基礎的事項を扱かう。テキスト，松浦，小島著：分析化学大要（養賢堂 ¥ 400）
分析化学Ⅱ	中西	Ⅱ後	簡単な機器分析法の解説。テキスト：分析化学Ⅰに同じ。◎〔分析化学Ⅰ〕
有機化学Ⅰ	林	Ⅱ	有機化学の基礎および鎖状化合物の概説 ◎〔基礎化学Ⅰ〕
有機化学演習	林	Ⅱ	Fieser 著：Introduction to Organic Chemistry（丸善）を用いる。（後期実施は未定）
化学実験無機分析	内海	Ⅱ	主として無機物質の定性分析および定量分析。
※無機化学Ⅰ	内海	Ⅲ	元素および無機化合物について結合論および物性論を化学的に学ぶ。 ◎基礎化学Ⅰ，Ⅱ
※生物化学Ⅰ	阿武	Ⅲ前後	炭水化物，脂質及び核酸の化学とホルモン，ビタミンに関する概説。 ◎〔基礎化学Ⅱ又は有機化学Ⅰ〕
物理化学実験	立花野	Ⅲ前	物理化学の基本技術（工作，測定，解析）の実習。小寺：物理化学実験法（朝倉書店）とプリント ◎物理化学Ⅰ，基礎物理学実験

有機化学実験	林田	Ⅲ後	有機化合物の合成，反応等に関する基礎的実験。
物理化学Ⅱ	佐野	Ⅲ	物理化学第1につづき，原子および分子構造の知識にもとづいて，統計力学的取扱いと物性および反応の解釈をする。W. J. Moore（藤代亮一訳）物理化学（下）（東京化学同人 ¥ 650）
有機化学Ⅱ	塩田	Ⅲ	環状有機化合物の概論（有機化学Ⅰにつづく）
生物化学Ⅱ	瀬野	Ⅲ後	蛋白質及び酵素について。◎〔有機化学Ⅰ〕
機器分析	中西	Ⅲ前	代表的な機器化学分析法を解説。
生物化学実験	阿武野	Ⅳ前	炭水化物，蛋白質，脂質，核酸及び酵素についての基礎的実験。
生体反応論	吉川	Ⅳ前	細胞生化学，代謝研究法，血液生化学，生体内化学反応の各段階の解説（糖質，脂質，アミノ酸，核酸の中間代謝とその生物学的意義）
化学演習	化学	Ⅳ	外国語で発表された研究論文の解説と討論。
化学特別実験	全教官	Ⅳ後	
構造化学	中川	Ⅲ前	テキスト 1. 島内武彦：構造化学講義資料（裳華房，3月下旬刊行） 2. 水島三一郎：分子（岩波全書 ¥ 280） 3. 水島三一郎，長倉三郎：量子化学（岩波全書 ¥ 350） 2原子分子のスペクトル，多原子分子の振動スペクトルと構造，分子の電気的性質，化学結合論，結晶構造，分子構造に関連したトピックス。
高分子化学	小寺	Ⅲ前	I 高分子の定義，特質。II 高分子各論。III 溶液論（分子量測定法）。IV 生成論（縮合，重合）。V 固体論（ゴム弾性，粘弾性）。プリント使用
応用化学 （大学院理学研究科） 〔化学専攻〕		Ⅳ後	化学工業論，その特性，他の産業との関係，有機及び無機化学工業概論。

界面化学	立花	I前
放射線化学	佐野	I後
物理化学特論 I	佐野	II前
物理化学特論 II	立花	II
物理化学演習	佐野	I II
無機化学特論 I	久保	I
無機化学演習	内海	I
有機合成化学	林	I後
有機化学演習	林	I
有機合成化学	塩岡	
生物化学特論 I	阿武	I前
生物化学特論 II	瀬野	I後
生物物理化学特論	阿武	I前
生物化学演習	瀬野	I
分析化学特論	中西	I後
機器分析特論	〃	I前
分析化学演習	〃	I
特別研究	各教官	

生物学科			
科目名	担当教官	対象年	講義内容
(必修 I)			
植物系統学 I	津山	I前	植物の主要な群についてその形態を学び、系統上の位置づけをする。
動物系統学 I	藤田	I後	無脊椎動物について各門・綱・目の間の類縁関係を主として講義する。その他各種属の体制生態等についても述べる。プリント使用。
動物生理学 I	柳田	II後	動物生理学入門コース。各個別機能、および特に生体協同機作につき、一般生理学的な基本原理から比較生理学的多様性への発展を展望する。
植物生理学 I	大槻	II前	植物生理学一般について講述する。
遺伝学 総論	新関	II後	遺伝の現象及び理論について、基礎的なものを説明する。
動物学臨海実習	木下	II前	海産無脊椎動物の体制についての系統的ならびに発生的な観察。
植物学臨海実習	津山	II前	海産植物の主要群について、その構造をしらべ、系統を知る。
細胞学	太田	III後	細胞の構造と機能の関連について。
動物発生学 I	岡	II後 III前	動物の生殖、発生に関する諸問題を綜説的に解説する。確井益雄著図説生物実習体系 —動物の発生— (地球出版 ¥ 550)
植物生理学 II	塚本	III前	植物生理学に関する適当な教科書による。
動物生理化学 I	荒木	III後	動物生理化学に関する適当な教科書により行なう。
遺伝学各論	岡	IV前	遺伝に関する基礎的なものと尖端的なもの。
生物学演習 特別研究			

(必修Ⅱ)			
植物系統学Ⅰ 実習	津山	I前	講義と関連し、主要群の栄養及び生殖に関する器官の構造を調べる。
動物系統学Ⅰ 実習	柳田	I前	動物の主要な種類についての解剖実習(地球出版 ¥ 550)
細胞学実習	太田	Ⅲ後	細胞の構造および機能を調べる実験。
動物発生学実習	団	Ⅲ後	講義に準じて脊椎、無脊椎動物の材料を用いて、正常発生を観察する。
動物生理学Ⅰ 実習	柳田	Ⅲ前	毎週一題ずつ比較的簡単な練習研究課題を割り当て、生理学的な研究様式と基本手技との心得を養う。
動物生理学Ⅰ 実習	大槻	Ⅱ前	基本となる実験に重きをおいて行う。
植物生理学 実習	塚本	Ⅲ後	生理化学の基礎的実験。
動物生理化学 実習	荒木	Ⅲ後	生理化学の基本的実験。
遺伝学総論実習	新関	Ⅱ前	染色体観察法、交配技術などを主とした実験。
遺伝学各論実習 (選択)	岡	Ⅳ前	
動物組織学	木下	Ⅱ前	動物細胞と組織の構造と機能について形態学と生理化学の面からふれてゆきたい。
動物組織学実習	木下	Ⅱ前	パラフィン包埋、マイクロトームによる薄切片の製作、通常染色法及び顕微鏡操作について習得する。
植物組織学	井上	Ⅱ前	維管束植物の組織学的構造を特に分化の問題を系統的発達の面から講ずる。 小倉謙・植物形態学及解剖学 (養賢堂 ¥)

植物組織学実習	井上	Ⅱ前	種々の組織及び器官の構造を検鏡する。
動物系統学Ⅱ	藤田	Ⅲ前	主として脊椎動物の系統について。(プリント使用)
動物系統学Ⅱ 実習	柳田	Ⅲ前	
植物系統学Ⅱ	津山	I前	個体発生と系統との関連、種の進化の問題などをあつかう。
細胞学Ⅱ	太田	Ⅳ前	
動物生理学Ⅱ	柳田	Ⅲ前	動物生理学Ⅰの続講。生体協同機作の要素としての生理的引き金機構に着眼、その種々相(神経筋等)を概観し、他方基礎過程の解析を試みる。実習Ⅰの後を承け、実施様式はⅠに準ずる。一段と高次の構成をもつ実験主題を選び、かたわら結果の数理的取扱いの体験を心がけたい。
同実習		Ⅲ後	
微生物学	大槻	Ⅲ後	微生物に関する一般的事項について。
微生物学実習		Ⅲ後	培養などの基礎実験。
植物生理学Ⅲ	塚本	Ⅲ後 Ⅳ前	
動物生理化学Ⅱ	荒木	Ⅳ前	
優生学	岡	Ⅲ後	人間における遺伝とその関連における諸問題、特に民族衛生学。
動物生理学 臨海実習	柳田	Ⅳ前	三崎臨海実験所に3日間滞在、海産の各種動物を材料に、一連の生理学的観察や小実験を行なう。
植物学野外実習 (自由選択)	津山	I~IV	
植物生態学	佐伯	Ⅲ後	植物と環境条件、植物群落の物質生産、群落統計、種間種内競争、生態地理、遷移、物質循環。

動物生態学	浦本	Ⅲ後	個体群の増殖と密度効果，野外個体群密度変動学説，群集生態学などについて，動物生態学の概念と方法を略述する。
動物心理学	丘	Ⅲ前	動物心理学の目的，方法を概観し，下等動物，高等動物の感受能力と反応能力につき述べる。
人類遺伝学	大倉	Ⅲ後	人類における遺伝の理解とその応用を実例について解説する。
園芸学	浅山	前	花卉蔬菜を主として，植物生理と栽培の学理と實際を学び，園芸生活の中に織り込む手段を考究する。
細胞遺伝学	小野	Ⅲ後	高等生物における染色体と遺伝子との関係ならびに遺伝子組換の機構を解説し，あわせて微生物における遺伝子の組換，変換，機能を述べる。
(大学院理学研究科)			
[生物学専攻]			
動物系統学特論		I	
細胞生理学特論	木下	I	
動物発生学特論	団	II	
動物生理学特論	柳田	II	
動物生理化学特論	荒木	I	
植物系統学特論	津山	I II	
細胞学特論	太田	I II	
植物生理学特論	大槻	I II	
酵素化学	塚本	I II	
遺伝学特論	岡	I II	
細胞遺伝系特論	新関	I II	
微生物生理学	池田	I II後	

生態学特論	門司	I II前
放射線生物学特論	仲尾	I II後
特別研究	各教官	

家 政 学 部

児 童 学 科

科 目 名	担 当 教 官	対 象 年	講 義 内 容
児童学演習第一	松 村	I	児童学の動向, 対象と領域の一般的な知識が習得されるように, 本邦文献を中心として演習形式で研究的にすすめる。
児童臨床心理学	松 村	III前	(1)臨床心理学概説。(2)適応と変革の理論と技法。(3)精神衛生の動向。(4)Projective Test(a)。
児童学実験演習第七 (精神検査③)	松 村	III後	知能検査, 性格検査, その他の検査の概説と演習。 (1)臨床心理学各論。(2)Projective Test(b)。(3)Role Techniques
児童臨床演習第二 (相談治療演習)	松 村	IV	(1)Counseling の理説と技法。(2)Psychodrama の理論と技法。 (3)集団心理療法の理論と技法。
集団力学	松 村	II後	集団力学概説。対人関係の心理と論理など。
児童発達原理第一 (精神発達)	浅 見	I後	精神発達全般を通じる原理について概観し, 児童理解の基礎を与える。
児童学研究法	浅 見	II前	児童学の諸分野を科学的に研究するために必要な方法, 原理について論ずる。
児童学実験演習第二, 第三 (心理実験・調査・評価)	浅 見	II後 III前	児童学研究(主として心理面)における実験研究のために必要な基礎的典型的実験方法の実習ならびに調査法, 評価法の訓練。

比較発達学演習	浅 見	II III	主としてドイツ語文献により, 比較の立場に立つ発達に関する諸研究を講読する。
児童学演習第三 (青年)	浅 見	IV	青年期に関する諸問題を種々の資料をもとにして論議考察し, 問題点を明らかにして青年のあり方を考える。
保育技術	菊 池	児 III 養 II	(1)幼児教育の必要, (2)幼児教育の歴史 (3)幼稚園教育の目標 (4)幼稚園教育の内容・指導の方法・評価の問題 (5)「自然」, 「絵画製作」の教育の内容について
保育実習第一	坂 元	IV	
児童学実験演習第五 (精神検査)①	牛 島	III前	知能検査, 性格検査その他の検査を概説と演習する。
児童発達各論第三 (青年)	牛 島	II前	青年期における心理的, 社会的成熟現象を研究する。
児童学実験演習第六 (精神検査)②	牛 島	III後	知能検査, 性格検査その他の検査を概説し演習する。
家族関係第二	牛 島	II後	家庭における世代・きょうだい・結婚の諸問題。
家族関係第一	森 田	III後	第一総論。(一)家族関係の意義。(二)家庭の本質。(三)家族関係の歴史。(四)人間と住居と衣食。(五)家庭の機能。(六)家庭と社会と人倫。 第二各論。(一)夫と妻。(二)親と子。(三)家庭と子供の養・教育。(四)家庭と青少年の問題。(五)家族関係の病理。(六)家族関係の法律。(七)家庭の展望。
児童文化第一	坂 本	III前	児童文化のエレメンタルなものの解明——そのうえに立って家庭や社会や価値観の変容のもつれた糸のなかで文学や芸術の占める位置を解明する。
児童文化第二	周 郷	III後	児童文化の本質, 児童文学その他の児童文化財について考察する。 (対象, 教育学科および児童学科)
児童文化第三	林	III IV後	子どもの美術教育の歴史とその実際指導上の問題点についての概論。
児童発達原理第二 (身体発達)	平 井	I後	胎児期より青年期に到る身体発育の概要を述べ, 発生, 発育の理論及び発育に及ぼす影響因子について論じ, 精神発達との相関に論及する。

児童発達各論第一 (胎児～青年)	平井	Ⅱ 前後	胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・青年期における身体発育・生理の特長を述べ、養護論・保育論の基礎的知識について論ずる。
児童学実験実習第一 (身体測定・体力測定・臨床検査)	平井	Ⅱ 前	身体発育に関する各種の測定法・小児生理に関する簡易臨床検査法、及び運動能力テストを実習する。
保育学第三	平井	Ⅱ 後	胎児期より青年期に到る養護・看護の一般論及び問題点を考察し、身体発育の促進因子・阻害因子について検討する。
脳神経生理学	平井	Ⅲ 前	発育期における脳神経系の発育・生理につき、その概要を述べ、その正常・異常が、子どもの精神発達及び言動に及ぼす影響について論ずる。
保育実習第二 (乳児院)	平井	Ⅲ 前	乳児院における実習を行い、身体発育の実態を観察し、養護の実習を行い施設児について社会的問題との関連を考える。
児童精神医学	平井	Ⅲ 後	乳児期より青年期に到る脳障害・精神病・神経症・精神身体症状による症状につき、原因・予防・治療などについて講述し、素質と環境・正常と異常について論ずる。
児童臨床演習第一 (児童精神医学)	平井	Ⅳ	児童精神医学に関する内外の文献を読み、それらの理論について討論を行う。
児童発達各論第四 (言語発達)	田口	Ⅱ 後	出生から学令までの、話しことばの発達について概説し、それに影響を及ぼす各種の条件について論ずる。
言語障害治療学	田口	Ⅲ	ことばの発達のおくれ・発音の異常・どもりその他の言語障害について診断・指導・治療の原理と方法を論ずる。
特殊児童の問題第二 (肢体不自由児)	田口	Ⅲ 後	肢体不自由児とくに脳性麻痺児および重症心身障害児について概説し、医療・心理・教育・福祉の問題および対策について論ずる。
児童学実験演習第八 (言語、聴覚検査法)	田口	Ⅳ 前	子どもの言語能力・聴覚機能の診断に必要な、各種の臨床検査法の理論と実技。
児童環境学第二	船川	Ⅱ Ⅲ 前	現在の我国の母子衛生にはどのような問題があるか、この向上のために、社会全体としてどのような手段をとるべきかについて研究する。

児童福祉第一	辻村	Ⅱ 前	児童福祉の歴史、殊に近代における我が国の児童保護政策の発展。
児童福祉第二	辻村	Ⅱ 後	戦後児童福祉法施行後の児童福祉の概況。
児童福祉演習	辻村	Ⅳ	テキスト使用、施設見学を加える。
特殊児童の問題一	辻村	Ⅲ 前	身体的又は精神的に障害をもつ児童の諸問題。
児童環境学第一 (児童社会学)	辻村	Ⅰ 後	児童の発達を規定する社会環境的条件についての歴史的考察。
児童発達各論第二	津守	Ⅱ 前	乳児および幼児の精神発達についてその発達の過程、発達を規定する諸条件、関連する諸研究について講義する。
保育学第一	津守	Ⅱ Ⅲ 後	幼稚園および保育所の歴史、乳幼児保育の原理、保育の実際的、原理的諸問題について講義する。
児童学実験演習第四 (行動観察)	津守	Ⅲ 前	児童の行動観察の代表的方法について、実習する。
保育学第二	津守	Ⅲ Ⅳ 後	幼児の保育内容の諸問題、現場研究、保育者に関する研究、その他保育学研究の諸問題について考察する。
保育学演習	津守	Ⅱ Ⅲ Ⅳ 前後	とくに、精薄幼児の保育の問題について研究する。観察、事例研究、文献講読
社会福祉	木田	Ⅲ 前	わが国の現状を中心に社会福祉の構造および機能体系につき、その専門科学的な基礎知識を与えることを目的として講述する。

食 物 学 科

科 目 名	担 当 教 員	対 象 年 級	講 義 内 容
栄養化学	稲垣	Ⅲ	栄養素の化学、生理的意義、新陳代謝および栄養要求量などについて述べ

栄養化学実験	稲垣	III	ると共に、各種ビタミンの歴史、構造、性状、生理作用、所在等について述べる。
栄養学輪講	稲垣	IV	各種ビタミンの抽出、化学的定量、動物実験および、醗酵微生物実験、主要酵素の分離、測定を行う。
栄養生理学	小池	III	栄養素の生理、化学等をテキストを用いて行う。
生物化学	福場	I	人体の生理と栄養素の生理的意義について、また、労働と能率、疲労、睡眠、ストレス、あるいは、妊娠、成長、老化と栄養との関係を学ぶ。
食品化学第一	小林	II	栄養化学、食品化学の基礎として、糖、蛋白、脂肪、ビタミン等の化学および物質の生化学的变化について、述べる。
食品化学第二	山西	III前	食品成分の化学および農産食品の処理、加工、貯蔵について述べる。
食品化学実験	山西	II III	水産食品の成分及びその調理、加工、貯蔵中の変化。
食品品質論	山西	III後	食品成分の分離、定性、定量及び簡単な有機合成。
食品学輪講	山西	IV	食品の品質を左右する色、香、味に関する化学。
食品物性論	右田	IV後	食品学に関する文献の輪読。
食品微生物学	蓑田	III前	コロイド化学の立場から食品の性質をのべる。
食品化学第二	藤卷	III後	微生物の種類(かび、酵母、バクテリア、放線菌)、生育と増殖、環境因子、微生物菌体と食品、微生物酵素と食品、微生物代謝と食品。
食物衛生学	河端	III後	畜産食品(乳、肉、卵)についてその色、味、香などの食品の品質、原料の処理、加工、貯蔵中に生ずる変化を主として化学的に解明する。
食物研究法	吉川	IV前	食品衛生法規の概説、添加物の使用基準についての解説、飲食物に起因する伝染病、食中毒の種類、特徴、防止法について。
			「官能検査」をテキストとして使用し、①官能検査の問題点 ②知覚の数

調理学及び実験	松元	II後 III前	量的取扱 ③感覚尺度の構成 ④感覚尺度のパネル ⑤プロファイル法 ⑥食品の官能検査と統計的方法 について述べる。
食事計画論	松元	III	調理のための食品学講義。調理に関する基礎的実験。
調理学輪講	松元 吉松	IV	栄養学・食品学を基礎とした献立への過程。献立作製の演習。
調理学実習一	吉松	II前	調理実験に関係ある外国文献の輪講。
調理学実習一	吉松	III後	主として基礎的調理一般の講義実習。
調理学実習二	吉松	IV前	主として欧風料理一般の講義実習
調理学実習第一	板橋	III後	各様式の献立構成及び実習並びに食卓作法。
調理学実習第一	板橋	IV前	日本料理一般及び病人食餌について講義実習。
調理実習(教職用)	板谷	II	主として中華料理一般の講義実習。
調理器具論	武	III前	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
食糧経済学	桜井	III後	熱調理器具、成型器具を中心に、種類、材質、構造、品質、性能について講義する。
食物史	石川	IV後	日本の食べものについて、いろいろの角度から考察する。
食物学演習	食物学 科全教 官	IV	主として近世から近代にいたる社会変革期における食生活実態の変動過程を明らかにし、今日の食生活構造の変動の歴史的、社会的意義をはっきりさせる。
基礎化学II	白井	II前	外国で発表された近着研究論文の解説と討論。
			化学の物理化学的部分の入門。物質の状態、相平衡、化学平衡、電離平衡を主に扱う。

被服学科			
科目名	担当教官	対象年	講義内容
染色化学第一	林	Ⅱ前	染料の部属別特性概説および各部属染料の染色性、染色堅ロウ度、染色機構の概要（光生館：染色概説矢部・林）
染色化学実験第一	林	Ⅱ後	染料の鑑別。染着量の定量法。直接染料・酸性染料の染色性、堅ロウ度試験（光生館：染色概説：矢部・林）
染色化学第二 （特論）	矢部	Ⅲ	色彩の物理的表示。有機化合物の色と化学構造。染色の物理化学（染着平衡論、染色速度論。染着構造論染色物の光退色の理論）
染色化学実験第二	矢部	Ⅲ	測色法。染料溶液の吸収スペクトル。直接および分散染料の吸脱着平衡、セロファン巻層による染料見かけの拡散係数測定など。
被服科学演習第一	矢部		K. Durham : Surface activity and Detergency.
被服科学演習第二	林	ⅢⅣ	Th. Vickerstaff : The Physical Chemistry of Dyeing.
被服科学輪講	矢部 松川 林	Ⅳ	近着外国文献（英米独）の主としてオリジナルな報文につき、輪講及び討論。
被服材料学第一	松川	Ⅱ	被服材料の分類、原料、性質、用途など。特に繊維製品の各論。プラスチック、ゴム、皮革の概説。松川：被服材料（家政教育社 ¥ 350）
被服材料学実験第一	林	Ⅱ	基礎実験。繊維の鑑別。混合繊維の分離定量。繊維製品の取り扱いに関する実験（家政学実験講座Ⅰ、Ⅳ巻）
被服材料学第二	三平	Ⅲ前	被服の材料特性の解説。各種の布について、賦形特性、実用特性および耐久特性を説明し最終用途の適性化を材料学の立場から説明する。

被服材料学実験第二	酒井	Ⅲ	繊維、糸、織物等について各種の実験を行い、高分子材料としての、また特殊構造体としての特性を把握しつつ、実用性能の意義を考察する。
被服整理学	矢部 林	Ⅱ	洗浄作用の基礎化学（ぬれ、界面活性、界面吸着、単分子膜、ミセル形成、乳化、懸濁、保護コロイド等）洗浄力試験方法。漂白増白。
被服整理学実験	林	Ⅳ前 Ⅲ後	水の硬度測定。洗剤の溶液特性。洗浄力試験。 漂白、増白試験。羊毛の縮充。糊付。樹脂加工に関する実験等（家政学実験講座Ⅰ、Ⅴ巻）
繊維物理学	三平	Ⅲ後	繊維形態、変形の力学（レオロジー）および繊維の熱、光および電気的性質を解説する。糸および布の機械的性質を合わせてのべる。
被服機構学	某		織物の物理的性質を中心にして、保温性、通気性、透湿性、力学的性質（しわ、ドレープ、腰、など）などの各項について行う。
被服衛生学	田多井	Ⅱ	質、吸湿性、電気的性質・内部構造などを基礎的に述べる。 環境と人体機構を中心に、その適応における被服の役割について述べる。 田多井吉之介・田多井恭子：「最近被服衛生学」（光生館）
日本服飾史概説	谷田	Ⅰ前	上代より近世に至る服飾の概観。特に服飾における美意識の把握を中心とする。
西洋服飾史概説	谷田	Ⅰ後	上代より近世に至る服飾の概説。ヨーロッパ服装の成立要素の解明を中心とする。
東洋服飾史概説	谷田	Ⅲ後	中国服飾史、特に古代中世服飾の日本への影響関係。
染織工芸概論	谷田	Ⅱ前	工芸一般における基本的問題（機能、意匠、文様など）の理解を基礎として、染織工芸の具体的事例を概説する。
服飾美学概論	谷田	Ⅲ前	服飾類型、色彩感情、流行、美的範疇の各論。
服飾美学演習	谷田	Ⅳ	美学的方法の基本的な理解に資するための講読その他。
服飾史特講A	田実	Ⅲ前	わが国における近世の服装の軸をなし現代のきものに至っている小袖について、形態・地質・模様の変遷を順次詳述する。

服飾史特講 B	丹野	Ⅲ後	(1)衣服の基本形態について。(2)中世後期から近世にかけての女子服の変化を社会史的に解釈し、かつそれに伴う技術的発達追求を試みる。
色彩学概論	石山	Ⅱ後	Color system, 色の物理, 心理, 配色論, 測色序説。テキスト, 三浦寛三: 色彩学概論 (創文社 ¥ 700)
色彩学実験実習	石山	Ⅱ前	Basic design を通して行う。
服飾意匠実習第一	石山	Ⅲ前	Fashion 画の基礎。
服飾意匠実習第二	石山	Ⅳ前	Dress design の基礎。
服飾意匠学概論	石山	Ⅲ後	服飾意匠基礎論。
服飾意匠学特論 A	石山	Ⅳ後	服飾意匠の史的展開。スライド。
服飾意匠学演習	石山	Ⅳ前	Chambers: A Fashion Manual 及び Fashion Merchandise.
被服構成学第一	柳沢	Ⅱ	衣服の立体構成に関する基礎的事項。
被服構成学実験実習第一	柳沢	Ⅰ	洋服製作に必要な基礎的技術。
被服構成学実験実習第二	柳沢	Ⅲ	体型観察, 型紙製作, 裁断, 補正, 縫製に関する実験並びに実習。
被服構成計画第一	某	Ⅲ前	
被服構成計画第二	渡辺	Ⅲ後	被服構成計画に関する基礎事項, 主として防寒服, 防暑服設計について。
被服構成学実験実習第二	石田	Ⅱ	和服製作に必要な基礎的技術。
被服構成学第二	石田	Ⅲ前	衣服の平面構成に関する基礎的事項。
被服構成計画第三	石田	Ⅲ後	和服製作に関する諸問題。
被服構成学第三	石毛	Ⅱ前	主として縫製に関する基礎的事項

家政共通

科目名	担当教官	対象学年	講義内容
家政学原論	田辺	I前	人としての生活に於ける家庭の意義を, 家の機能, 家族, 生活態度及実践などの面から総合的に考えてゆく。
生活史	田辺	I後	原始時代からの人の生活の歩みを人の諸特性との関連に於て述べる。
家庭経済学概論	伊藤	I前	家庭経済についての基礎的理解と現状分析。
家庭経済学 I II	伊藤	Ⅱ前後	家庭経済の理論的解明。
家計簿記論 I II	伊藤	Ⅲ前後	家計簿記の概説と演習, 家計の簿記学上の理解とその運営。
家庭経済学特論	美濃部	Ⅲ後	第二次大戦後の経済の動向を述べながら経済学の原則を修得させる。
児童学概論	平井	I前	小児保健の概要及び育児の要点について, 児童学の実験・対象・方法について。
児童学概論	津守	I後	家政学における児童学の諸領域について講義する。
食物学概論	稲埋		栄養・食品・調理を関連づけて講義する。
被服学概論	谷田他	I前	被服材料, 染色, 整理, 服飾美学, 意匠, 構成の概要。
住居学概論	浜口	Ⅱ前	生活を包む住居が構築体として形成されるために必要な要素気候風土, 社会経済家族材料技術工法等を自然科学社会科学工学の関連において考える。
家庭管理学概論	稲葉	Ⅲ前	家庭生活における労力と時間の使い方に関する一般論。
家庭管理学特論	稲葉	Ⅲ後	家庭経営上, 家庭生活の改善点を調査検討する。
家庭機械工作	熊本		中学校技術・家庭科概要, 家庭機械・家庭工作の概要の講義

統計学	高工 増山	Ⅲ	家庭工作の実習—設計製図、製作、塗装等。 統計的見方、考え方の紹介を主とし、その応用として実験計画法、官能検査の初歩を加える。
同演習	増山	Ⅲ	統計計算ポケットブック（日本規格協会 ¥ 250）の内容より多少詳しい程度の統計解折技術を身につけることを目標とする。

教職教育科目			
科目名	担当 教官	対学 年象	講義 内容
教育心理学	小口		教育心理学の概論（青年心理をふくむ。）
教育原理	周郷	ⅡⅢ前 中心	教育の基本的なもの（fundamentals）を明らかにして、その現代への適用に及ぶ。
教育指導	宮田	ⅠⅡ後	ガイダンスの歴史。ガイダンスの諸問題。
道德教育の研究	宮田	ⅠⅡ前	第2次新教育における道德教育の発展。全面主義道德教育と特設主義道德教育。
教科教育法	尾鍋	Ⅲ	歴史教育を中心として社会科教育の歴史と問題点をのべる。
社 社	大和田	Ⅲ後	中・高校社会科指導要領の解説。地図の話地形図及び地図の投影など。社会科授業にあたっての実際上の諸問題について。
国 中 英	藤 山 宮田	Ⅲ後 Ⅲ Ⅲ後	国語教育中、中学、高校における目標や指導法の原理。 テキスト「現代中国文選」 ¥ 230 外国語教授の歴史。言語学習の心理。外国語教授の理論。わが国の中学校および高等学校における英語教授の実際。
体 保 音	林 松本 美田	Ⅲ後 Ⅲ後 Ⅲ	保健体育の教育方法に関する一般的理論。学習指導要領解説（文部省）の研究。 保健に必要な基礎的科目をたてにし、これを、中・高校生の知能と、教室環境にてらし、要点の軽重に応じた指導方法を講ずる。 音楽の教授法及び材料の実習による研究。

数 理 家 庭 教 育 実 習	学 科	秋 森	月 川	Ⅲ後 Ⅲ前	高等学校の数学教育法の一般的理論。 理科教育の目標，中・高等学校の理科の教育課程，指導計画の作成，学習指導法，評価，理科の施設，科学クラブの指導，現職教育等。
		伊 藤		Ⅲ前	家庭科教育の変遷，指導の目標，教育課程の編成，学習指導の計画，単元の設定および展開，学習指導の方法など。
小 学 校 教 材 研 究				Ⅳ	高校・中学教員のための実習（2単位分）と小学校・幼稚園教員のための実習（4単位分）とがある。高中の場合は7月と9月の予定。付属各校のほか学外協力学校をも実習校とする。
算 理 国 語 工 学 家 庭 音 楽 社 会 体 育 保 育 内 容 の 研 究	数 科 語 工 庭 楽 会 育	加 阿 大 林 富 福 宮 古	藤 久 沢 橋 林 平 田 地 江		小学校教員希望者のための科目。小学校の全教科8科目について，おのこの教科の目標および指導の内容（教材・資料）と方法を研究する。 テキスト：小学校学習指導要領（文部省版）
教 育 哲 学		周 郷		ⅡⅢ後	幼稚園教員希望者のための科目，児童学科における関係諸科目および幼稚園教員養成課程における関係諸科目と同一履修。 代表的な教育の思想とその思考方法をあきらかにし，現代日本の教育の現象についてのアプローチの仕方を探求する。
西 洋 教 育 史				前	

日 本 教 育 史	宮 坂	ⅡⅢ前	近代日本の中等教育の問題点を歴史的に明らかにし，戦後の改革および最近の再編成問題におよぶ。教育制度，内容，方法の全体にふれたい。
教 育 行 政 論	森	ⅡⅢ後	教育行政の意義，組織，作用等を，今日における内外の教育行政上の諸問題を通じて明らかにし，学校管理論におよぶ。
視 聴 覚 教 育	坂 元	Ⅱ前	主として学校教育における視聴覚的教材の意義や役割を明らかにし，その利用の方法等について考える。
教 育 社 会 学	河 野	Ⅱ後	教育社会学の意義，その領域と方法，歴史的展開を概観し，こんにちにおける主要な諸問題を明らかにする。

昭和40年度補導委員

学 科	1 年	2 年	3 年	4 年
哲 学	石塚富士子	尾田幸雄	勝部貞長	同 左
史 学	中村英勝	和田久徳	中村一良 市古宙三 尾鍋輝彦	同 左
地 理	松井勇	浅海重夫	式正英	渡辺光
国 文	市川孝	次田真幸	関根慶子	江湖山恒明
中 文	中山時子	中山時子	中山時子	中山時子
英 文	木原研三	酒本雅之	伊吹知勢	鍋島能弘
教 育	波多野完治	宮坂広作	河野重男	周郷博
体 育	石山平作	山中茂子	松本幸久	林渡辺俊 巖男
音 楽	美田節子	遠見豊子	大宮誠	齒田誠一
数 学	沢島侑子	林田侃	西三重雄	稲葉栄次
物 理	田中翠	坂上治郎	石黒英一	下瀬恒人

化 学	中西正城	林太郎	瀬野信子	塩田三千夫
生 物	柳田為正 津山尚	新関滋也	塚本晃	太田次郎 荒木忠雄
児 童	松村康平	田口恒夫	平井信義	辻村泰男
食 物	小林彰夫	山西貞	福場博保	吉松藤子
被 服	谷田関次	矢部章彦	林雅子	石山彰

昭和40年度行事予定表

月 日 (曜)	事 項	
4月上旬	前学期授業時間割発表	
4月9日(金)	入学式	
4月10日(土)~12日(月)	入学指導	
4月13日(火)	前学期授業開始	
4月下旬	就職指導開始	(4年次のみ)
5月上旬	定期健康診断	(2年次以上)
5月中旬	全学遠足	
5月中旬~6月	球技大会	
6月5日(土)~22日(火)	高・中観察参加	(4年次のみ)
7月3日(土)	授業終了	
7月3日(土)~17日(土)	第1期教育実習	(4年次のみ)

9月11日(土)	授業開始	
9月3日(金)~17日(金)	第2期教育実習	(4年次のみ)
10月上旬	後学期授業時間割発表	
10月4日(月)~9日(土)	前学期試験	
10月11日(月)	前学期末休業開始	
10月20日(水)	// 終了	
10月21日(木)	後学期授業開始	
10月~11月	体育祭・文化祭	
11月18日(木)	創立90周年記念式	
11月29日(月)	創立記念日	
12月24日(金)	授業終了	
1月8日(土)	授業開始	
2月7日(月)~12日(土)	4年次試験(専攻科を含む)	
2月21日(月)~26日(土)	3年次以下試験	
3月23日(水)	卒業式	

昭和40年度 (一般教育, 体育, 外国語, 基礎教育, 教職教育) 時間割 前期は () 後期は [] 無印は通年

区分	1 8.30-9.20	2 9.20-10.10	3 10.20-11.10	4 11.10-12.00	5 13.10-14.00	6 14.00-14.50	7 15.00-15.50	8 15.50-16.40	
月	人 心理学 (松村) 社 社会学 (園田) 基 基礎化学II (物理化学 立花) 〔有機化学 林〕 教 (教育心理 小口) 〔青年心理 小口〕	社 法学I(総論)[各論]井上 経済学 柴垣 基 基礎(植物学)II(大槻) 〔動物学〕II〔柳田〕 自 〔動物学 荒木〕 基 〔基礎動物学I 坂元〕 教 (視聴覚教育 河野) 〔教育社会学 河野〕	社 法学I(総論)[各論]井上 経済学 柴垣 基 基礎(植物学)II(大槻) 〔動物学〕II〔柳田〕 自 〔動物学 荒木〕 基 〔基礎動物学I 坂元〕 教 (視聴覚教育 河野) 〔教育社会学 河野〕	社 〔政治学 横田地〕	社 〔政治学 横田地〕	教 小学校教材研究	外 独語高級 志田	体 実技I 体 実技I (英教) (家)	体 実技I 体 実技I (化生) (数物)
火	外 英会話 全I ルイス 英語 理IA 長谷川 理IIA 西崎 理IIB (酒本) 〔野島〕 独語(文法)家I 志田 教 〔教育行政学 森〕	外 英語 文I B 長谷川 文II A (奥) 〔野島〕 文II B 木原 家II 鍋島 独語(文法)理I B 志田 仏語(文法)全I A 田嶋	外 英語 文I A 奥 独語(読本)文I B 原田 仏語(文法)全I B 小池	外 英語 文I A 奥 独語(読本)文I B 原田 仏語(文法)全I B 小池	外 英語 文I A 奥 独語(読本)文I B 原田 仏語(文法)全I B 小池	外 独語(文法)理I A 原田 家II 野村 仏語 全II 小池 体 実技I 体 実技I (哲史他) (国中音)	外 独語(文法)理I A 原田 家II 野村 仏語 全II 小池 体 実技I 体 実技I (哲史他) (国中音)	外 独語(文法)理I A 原田 家II 野村 仏語 全II 小池 体 実技I 体 実技I (哲史他) (国中音)	外 英語 文I A 長谷川 独語 文II 横溝政 〔読本〕家I 吉田 仏語 高級 吉田 体 実技II 体 実技II (哲史地) (国中音) II II (数物) (化生)
水	体 (体育 林) 〔衛生 松本〕 社 〔家政学 伊藤他〕 自 地学〔天文気象 石井〕 教 (教育原理 周郷) 〔教育指導 宮田〕	人 文学I 関根 文学II(鍋島)[中川] (美学)[美術史] 町田 音楽 大宮 社 法学II 潮見 物理学 小野 自 基礎化学I 内海	外 独語 文II 丸山 理II 上野 基 基礎数学I 小川	外 独語 文II 丸山 理II 上野 基 基礎数学I 小川	外 独語 文II 丸山 理II 上野 基 基礎数学I 小川	人 宗教学 高木 外独語(文法)文I B 上野 〔演習〕文I A 丸山	人 宗教学 高木 外独語(文法)文I B 上野 〔演習〕文I A 丸山	人 宗教学 高木 外独語(文法)文I B 上野 〔演習〕文I A 丸山	外 英語 理I B 西崎 文II A 堀 文II B 伊吹 独語 家II 小川 化学A 岡嶋 〔西洋教育史 宮坂〕 〔日本教育史 〕

木	外 英語 理I B 西崎 文II A 堀 文II B 伊吹 独語 家II 小川 化学A 岡嶋 〔西洋教育史 宮坂〕 〔日本教育史 〕	外 英語 家I (木原) 〔野島〕 独語(演習)理I A 小川 理I B 志田 理II 横溝政 仏語(演習)全I B 小池 全II 岩崎 自 化学B 岡嶋	外 英語 文I A 長谷川 独語 文II 横溝政 〔読本〕家I 吉田 仏語 高級 吉田	外独語(文法)文I A 横溝政 〔演習〕文I B 吉田 仏語()全I A 田嶋 体 実技II 体 実技II (哲史地) (国中音) II II (数物) (化生)
金	人 哲学 (藤田)[石塚] (倫理学 尾田) 自 地学(地質鉱物 式)	社 歴史学(尾鍋)[市古] (地理学 渡辺光) 自 数学 松田 (統計学 魚返) 〔植物学 塚本〕 基 〔基礎植物学I 塚本〕 基礎物理学II 坂上 教 〔教育哲学 周郷〕	理共 基礎(物理学) 実験 〔(化学) 〕	〔(阿阪)〕 〔(中西)〔岡嶋〕〕 教 小学校教材研究 体 実技II 体 実技II (英教) (家)
土	外 英語 理I A 伊吹 理I B 堀 理II A 酒本 理II B 西崎 家II 石渡 ルイル 全II 独語(読本)文I A 横溝節 〔演習〕家I 志田 仏語(読本)全I B 市原 教 (道德教育の研究)	一 総合コース 外 英語 文I B 酒本 家I 伊吹 独語(読本)理I B 横溝節 〔 〕理I A 志田 仏語(読本)全I A 市原 文共 ロシア語 米川 基 (基礎化学II 物理化学 白井)	(理科教育法 森川)は土 曜午後集中講義の予定 〔数学科教育法 秋月〕は 後期の予定	注1. 社〔文化人類学 中根〕 は月3~4又は5~6の予定 2. 外 仏会話(ホエッカ) は月3~4又は5~6の予定 独会話ウィークローは未定 3. 理(共)基礎生物学実験 太田は7月上旬及び9月上 旬の2回 4. 仏語の組分け 全I A = 文I A + 理I 全I B = 文I B + 家I

